

## 蜂の習性と誘引捕殺

増田署 皆瀬森林事務所 佐藤 辰郎

はじめに

蜂刺され災害は、保護具の着用などにより減少傾向にあるが、昨年は、北海道において工事中の人が蜂に刺されて死亡するなど、山で働く人たちにとって大きな問題であります。昨年、自動注射器が試験的に導入され、私もこの注射器を持っている一人ですが、この自動注射器を持っていれば蜂に刺されないという訳でもなく、また、この注射器を使えば蜂に刺された痛みやショック症状がちどころに消える訳でもありません。だから、私自身、蜂に対する恐怖心は注射器を持つ前と変わりありません。

なんといっても蜂に刺されないことが一番の災害防止の方法なのです。そして、私の今までの経験から、蜂刺され災害の防止に一番効果のある方法は誘引捕殺だと考えていますので、その内容について発表します。

誘引捕殺器を設置するにしても、安全で、見回りなどが簡単で、そして、その効果が現れるやり方でなければなりません。私は昭和63年頃からいろいろ試験してきてわかったことですが、一番のポイントは蜂の習性を知ったうえで誘引捕殺器を設置することです。

それでは、蜂にはどのような習性があるのでしょうか。

第一の習性として、女王蜂は前の年から越冬して4月下旬から1匹で巣を作り始めます。この時が誘引捕殺の最高の時期です。なぜなら、この1匹だけの蜂の巣が7月頃から秋にかけて4000から5000の大群にふくれあがります。だから、女王蜂が1匹のときに捕殺してしまえば、4000匹から5000匹も捕殺したことになる訳です。私はこのことから4月下旬から7月上旬までの捕殺に全力を上げています。昨年は、4月下旬から7月上旬の2カ月半に女王蜂を約千匹捕殺しました。この千匹の女王蜂が巣作りをすることによって、夏には5百万匹もの蜂が飛び回るようになってしまいます。

また、女王蜂が1匹だけで巣作りをしている間は、ほとんど攻撃して来ないことも蜂の習性の一つです。だから、捕殺器の取り付けや見回りが安心してできます。

私の使用している捕殺器と捕殺液はこのようなものです。捕殺器は特に変わった工夫はしてない一般的なものです。捕殺液は、日本酒コップ2杯と原液のぶどう酒1杯、それに砂糖小さじ1杯程度、それから腐らないように酢をすこし入れたものです。この捕殺器で捕まえた女王蜂がこれです。大きさは4センチから5センチもあります。

次に、第2の蜂の習性として行動範囲があります。スズメバチの行動範囲は8～10キロメートル以内といわれていますが、普通は2キロメートル程度の範囲内で行動します。

また、第3の習性として、蜂は南向きの日当りの良い、風の強く当たらない場所を好む

ということです。私は、この行動範囲と蜂の好む環境の2つの習性を利用して、少ない捕殺器で管内全体の蜂を捕殺する方法を考えました。それは、管内の林道や国道などの道ばたに捕殺器を設置する方法です。道ばたの蜂の好む環境のところに、蜂の行動範囲から考えた約0、5～1キロメートルの間隔で捕殺器を設置するのです。

以前は、あちこちの作業現地ごとに多数の捕殺器を設置していたため、取り付けや見回りに何日もかかり、大変難儀しました。この方法だと捕殺器の取り付けと見回りに、すべて車で移動できるという大きなメリットがあります。また、作業現地ごとに設置していた場合に比べれば捕殺器の数も大変少なくてすみます。捕殺器の見回りなども大変らくにでき、1日で全部の捕殺器を見回りすることができます。この方法にしてから、事業実行で入山する区域面積約7千ヘクタールを20個の捕殺器でカバーすることができるようになりました。

また、道路ばたであれば見回りで万が一刺された場合の緊急対応の面からも良いと考えているところです。

次に、第4の習性として標高と蜂の生息の関係です。別表は標高ごとの蜂の捕殺数を示したものです。これを見ると標高が高くなるにつれて捕殺数が少なくなっています。特に標高600～700メートル以上になると極端に少なくなります。このことから、標高の高いところでは蜂の生息密度がきわめて低いことから、捕殺器の設置数も少なくてすむこととなります。これは、温度の違いはもちろんのこと、蜂の餌となる昆虫類の生息が少ないことも大きな原因と考えています。

次に、私が今まで誘引捕殺をやってきて気が付いたことですが、ミツバチはこの捕殺器には入らないことです。ミツバチは甘い蜜をたべる種類であることから、ミツバチのほうが捕殺器に入りやすいものだと思っていました。飼育している業者からミツバチがスズメバチに襲われて大変困っているとの話を聞き、飼育しているミツバチの箱のすぐ近くに誘引捕殺器を設置したところ、ミツバチは入ってなくてスズメバチだけが入っていました。このため、ミツバチがスズメバチから襲われることもなくなり、飼育業者から大変喜ばれているところです。なぜ、この甘いにおいの捕殺器にミツバチが入らないのか原因はよくわかりません。

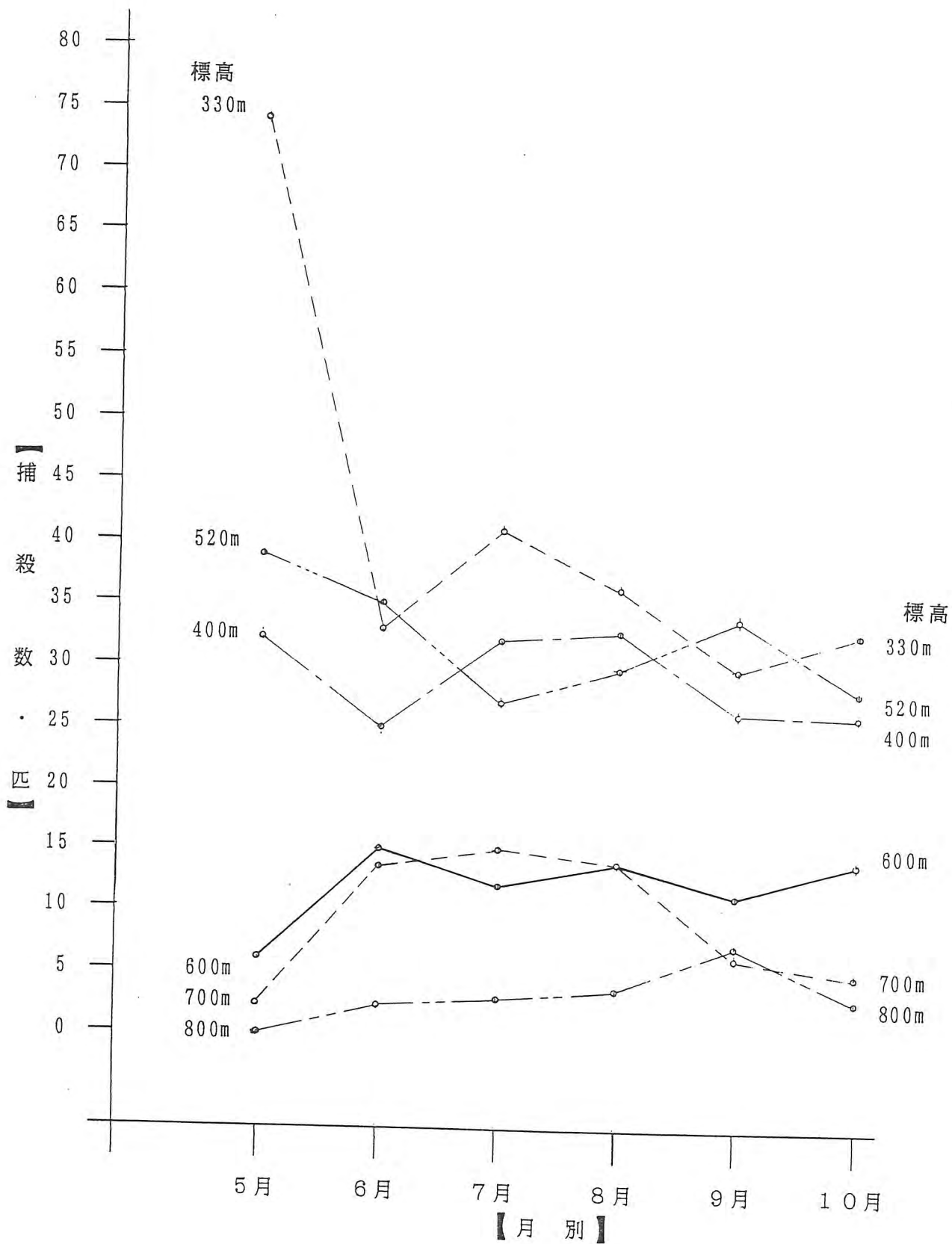
おわりに

以上、誘引捕殺について、私のこれまでの経験から得たものを申し上げましたが、これからもさらに蜂の習性について研究して、蜂の習性を利用した効果的な誘引捕殺を目指したいと考えています。

最後に、別添の新聞記事は、増田営林署の誘引捕殺による災害の防止対策を取り上げたものであり、私たちの誘引捕殺に対する取り組みが評価されたものと考えています。

# 標高別蜂捕殺調査表

(平成7年捕殺結果)





昨年捕獲されたスズメバチ

効果上々  
簡易トラップ

# 1年間で900匹を捕獲

## 増田営林署 作業員もひと安心



このトラップは市販されり(1)の上部に約三センチ四方の  
ている清涼飲料水のプラスチックを開け、ハチの侵入口に  
チックポトル(二・五リットル)の中は、日本酒一  
リットル。

山の中でスズメバチに襲われることの多い森  
林作業員のため、増田営林署は、スズメバチを  
捕らえる簡易トラップ(わな)を製作した。  
ジュースなど清涼飲料水が入っていた大型のプ  
ラスチックポトルを利用した仕掛けで、効果も  
上々という。

# 甘くいわなでスズメバチ退治

対シグレープジュース(濃  
度一〇〇%)の割合で混  
合したものに、砂糖と酢を  
加え、ポトル三分の一程度  
入れておく簡単なもの。飛  
んできたスズメバチは甘い  
においに誘われて、ポトル  
の入り口からトラップの中  
に入る。しかし、ハチはそ  
のまま外に出ることができ  
ず、トラップ内の混合液に  
落ちて死ぬ、というもの。  
同署では県外でこうした  
簡易トラップが効果を上げ  
ているのを聞き、三年前  
から改良を加えながら試験  
を重ねてきた。昨年、同署管内  
の檜川、稲庭、湯元、増田  
の各森林事務所の現場に設  
置。このうち湯元森林事務  
所で統計をとった。  
同事務所が設置したのは  
皆瀬川流域の大湯沢地内の  
七カ所、総面積は約千坪で、  
一年間に約九百匹のスズメ  
バチを捕獲した。特に五月  
下旬から七月上旬にかけて  
は、一匹、四五百匹を繁  
殖させておられる女王ハチ  
七匹を捕まえるなどの成  
果を上げた。また海拔七、  
八百坪の所へは、あきあき飛ん  
で来ない(よ)とわかった。  
これらの結果を踏まえて  
同署はこのほかに、倒木起し  
し作業が行われている現場  
やこれから始まる下刈り、  
除伐作業地など二十八カ所  
に設置した。取り付いても作  
業地入り口の木に針金で縛  
り付ける簡単なもの。  
例年ならば、スズメバチ  
倒木起しし作業が行わ  
れる現場にアラシを  
設置する職員

に刺されたという報告が入  
るが、今のところ被害も少  
なく、作業員もますますほっ  
たしている。湯元森林事務  
所の鈴木直幹森林官は「ス  
ズメバチの怖さは現場の人  
たちが一番よく知ってい  
る。山間部の畑のほか、市  
民菜園でもこの装置を付  
けることで被害が防げると  
思う。大いに活用してもら  
いたい」と話している。



森林作業員は山中でスズメバチに襲われることが多いため、増田営林署では20日、山内村の国有林にスズメバチを捕らえる「簡易トラップ(わな)」を設置した。ジュースなど清涼飲料水の大型のプラスチックボトルを利用した仕掛けで、昨年から行っており効果も上々という。

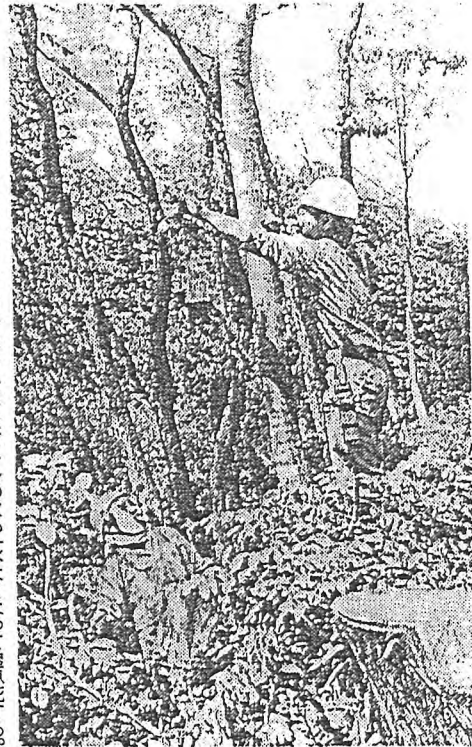


# スズメバチに甘いわな

## 作業員の被害をなくせ!

山内村で増田営林署

# ボトルを利用し捕獲



「ほ」は「わな」が「わな」の現場に設置されたプラスチックボトルを利用した捕獲装置。増田営林署

同署は県外で起こった簡易トラップが効果を上げていふことを聞き、4年前から改良を加えながら試験を続けている。この結果、作業員の被害が激減したため、毎年トラップを設置するようになった。

仕掛けは密着して腐蝕。市販されている清涼飲料水のプラスチックボトル(1・5リ入り)の上部二カ所に約三センチ四方の穴を開け、ハチの侵入口にする。中には、日本酒二に対して一リットルの割合の混合液に防腐剤として酢を加え、ボトル三分の一程度入れられる。

回収されたトラップには昨年捕獲したスズメバチの死がいがいっぱい

スズメバチはボトルの穴から入って蜜を舐め、その隙からトラップの中に入る。ハチの仕掛けでこれまでに年々中の混合液に入るハチは約千匹ほどのスズメバチは秋までもの植栽下刈り同署では来月の下旬までになどの作業が続けられる。約百カ所に設置しスズメバチの被害を最小限に食い止めることをしている。

好天が続く、山の気温が上がりハチが活発に活動してきたことから、同署は今年も設置作業を開始。この日は、増田営林事務所増田支所が現在一地向けられ、山内村の国有林の十カ所に設置。これまで